



国際会長ニュース

愛と尊厳で世界を癒そう



国際会長 キム・サンチェ

2022年 4月号

キム国際会長のメッセージ

2 ページ

平和への願いとウクライナとその近隣諸国の兄弟姉妹への祈り



IHQ ニュース 4 月

3 ページ

内容
ウクライナアピール:ヒールザワールドとの連携
4 月 25 日は世界マラリアデー



ラテンアメリカ地域

4 ページ

ラテンアメリカ地域における YMI の発展および女性の活躍について

ラテンアメリカ地域会長
ロサナ・クロチ・レイエス



4 月の強調月間テーマ

5 ページ

ゴミのための週(W4W:Week4Waste)

2021 年度の結果と 2022 年度の取り組みの奨め

W4W 委員長 ウルリック・ラウリドセン



4 月の強調月間テーマ

6 ページ

「カーボンニュートラル」になること

何故 YMI はカーボンニュートラルを維持することに努めるのか



グリーンチーム コリン・ランビー

CS の意識の高揚

7 ページ

世界中の CS プロジェクト例の紹介ビデオの案内

元地域会長 サウスローワン Y サービスクラブ
テリー・ブラッドリー



「強い義務感を持つ 義務はすべての権利に伴う」





キム国際会長のメッセージ

「四月は残酷極まる月だ」は、トマス・スターズ・エリオット(1888-1965)の長編詩「荒地」の冒頭を飾る言葉です。「四月は残酷極まる月だ。リラの花を死んだ土から生み出し、追憶に欲情をかきまぜたり、春の雨で鈍重な草根をふるい起こすのだ。」

済州島 4・3 事件、4・19 革命、4・16 セウォル号フェリー事故など、4 月に多くの人命が失われた韓国の近代史にとって、ほとんど決まり文句になりました。

同時に、韓国には「四月の歌」という叙情的でロマンチックな歌があります。

「朴葉の木陰でウェルテルの手紙を読む。

曇天の丘で笛を吹く。

ああ、遠くへ行き、名もない港で船に乗った。

朴の木の花陰で長文の手紙を書く。

クローバーの咲く丘から口笛を吹く。

ああ、遠くへ行つて、山奥の木の下で星を眺める。

四月の帰りは命の灯をともし。

夢の輝く季節、涙の虹の季節」

この曲は朝鮮戦争直後の 1953 年に作曲され、当時の難民の生活の悲惨さにもかかわらず、その純粋な叙情性から多くの人々に愛されてきました。

不幸の中に愛と慈悲の花が咲くように、YMI の追求する奉仕の精神は、困難な状況にあるウクライナに向けられています。

4 月号をお読みになるころには、ウクライナの戦争も終わっていることを願います。

直接被害を受けたウクライナと近隣諸国の兄弟姉妹たちに、私たちの思いと祈りを捧げます。私たちは、「愛と尊厳で世界を癒そう」という私のスローガンとともに、平和と癒

しのために小さな一歩を踏み出し続けていきます。私たちは、クラブと区の皆さまに、「ヒールザワールド基金」への寄付をお願いしています。この資金は、ミッションパートナーであるヨーロッパ YMCA 同盟のプロジェクトを支援するために用いられます。(詳細は 3 ページ)。

ワイズメンの平和への祈りが世界中に響くことを願っています。



YMI Heal the World

2021-2022 国際会長

キム・サンチェ

IHQ からのニュース 2022 年 4 月

世界は、苦しみの目撃者となり続けています。多くの場所で新型コロナウイルスの影響が和らいでいる一方で、戦争や軍事行動が新たな絶望を引き起こしています。東欧の状況は、憂慮すべきものです。ウクライナでは、双方の民間人と兵士の命が失われ、悲劇的な状況となっています。戦争から逃れたウクライナ人は、ヨーロッパに大規模な難民危機が迫っていることを予感させます。YMI は、ヒールザワールドの一環として、ヨーロッパ YMCA 同盟と協力し、戦争被害者への緊急支援を行うことを約束しました。ウクライナへの緊急支援にご協力いただいたクラブ、区に感謝いたします。まだご寄付をされていない方は、ぜひご検討ください。



IHQ では、後期の会費を適時にお支払いいただいたクラブと区に心から感謝するとともに、2022 年 5 月 31 日までに国際プロジェクトやプログラムへの献金について、皆さまの寛大なご支援をお願いしたいと願っています。これらのご寄付は、世界にインパクトを与え、国際組織としての義務を果たすために非常に重要です。

区業績賞は、会員数の増加、国際献金の増加、クラブ数の増加に基づいています。すべての区は、これらの項目に迅速に注目していただきたいと思えます。

2008 年から、マラリアとこの病気を地球上から根絶する方法についての認識を高めるために、4 月 25 日が世界マラリアデーとされています。YMI は、WHO、マラリア終結のための RBM パートナーシップ、グローバルファンドというプログラムパートナーとともに、今年の世界マラリアデーのテーマを推進しています。このテーマは、マラリアのない世界を実現するという共通の目標のもと、世界のマラリア・コミュニティが団結するためのエネルギーとコミットメントを強調するものです。

私たちの Week4Waste プロジェクトは、世界の主要なクリーンアップ・キャンペーンへと発展しました。この 1 ヶ月間、すべてのクラブがそれぞれの地域社会で対応するプロジェクトを実施するようお願いいたします。活動の写真と簡単な説明を IHQ に送付し、[Week4Waste 専用の Facebook グループ](#)で直接共有することを忘れないでください。

この 1 年間で 84 の新クラブが加盟したことを、喜びを持ってお伝えいたします。また、このことに関わった区、部、スポンサークラブの皆さまには、貴重なリーダーシップを発揮していただき、ありがとうございます。6 月末までに 100 の新クラブが誕生するよう、チャレンジしていきましょう。

4 月はイースター、希望・再生・新生の時です。現在の世界的な課題にもかかわらず、この季節の精神と祝福が私たち全員とともに、そして私たちの中にありますように。

国際書記長ジョース・ヴァルギース

ラテンアメリカ地域

3月8日は国際女性デーでした。この日は、国連を含む多くの組織が女性の権利を支持するために声を上げる日です。

今日、私たちは、ワイズメンズクラブ国際協会(YMI)が男性の組織として生まれましたが、何年も前に男女平等で包括的な存在になることを意図し、女性を取り込むために発展してきたことを認識します。YMIのラテンアメリカ地域は、当初、100%男性メンバーでしたが、年月が経つにつれ、徐々に素晴らしい女性たちの関心と献身を集めるようになりました。現在、ラテンアメリカ地域の会員数は、男性が約3分の1、女性が約3分の2であり、女性会員枠を設ける必要はありません。

ラテンアメリカ地域で最初にYMIに参加した女性の多くは、残念ながらラテンアメリカ地域では消滅してしまったワイズメンズのパートナー組織であるワイズメネットでした。私たちのメンバーは、社会文化的、教育的、経済的に様々なレベルにありますが、最も弱い立場の人々に対してボランティア活動をするという誠実な気持ちで結ばれています。また、多くのメンバーは、パートナーであるYMCAの指導者としても活躍しています。私たちの地域にはグローバルメンバーがいて、私たちの組織に所属し、奉仕することを希望するすべての人を受け入れています。

ラテンアメリカ地域の最初の国際議員/地域会長は、カリブ海諸国区がまだラテンアメリカ・カリブ海諸国地域の一部であった1978年にジャマイカ、キングストン・ワイズメンズクラブのエドナ・ベケットでした。その後、多くの人々が彼女の後に続き、組織全体に女性らしい建設的なビジョンを提供するだけでなく、多文化、グローバル、包括的なビジョンを中立的に理解することに熱意をもって取り組んでいます。スイスのジュネーブにある国際本部では、ラテンアメリカ地域から2人の若い女性をユースインターンとしてスタッフに迎えることができました。1996年のロサナ・クロチ・レイエス、2003年のクリスチャン・バコスがそうです。また、シルビア・レイエスは、バランタイン賞の受賞者として私たちの運動で最高の評価を受け、現在もYMIに貢献していることも特筆に値します。

新型コロナウイルスの流行期間中、ラテンアメリカ地域は、最新のコミュニケーション技術を駆使して、クラブと会員間のリンクを維持しました。これらの会議には、多くの女性を含むチームが参加し、企画、開発、実施にあたりました。このチームは、その後、地域社会でフィールドワークを行い、計画されたことを実現するために奉仕しています。



私は、8つの地域が女性の会員を増やすために懸命に努力していることを嬉しく思います。ワイズメンズクラブ国際協会の成長を促し、より多くの女性会員を取り込み、より良い世界のアイデアを発展させ続けようではありませんか。

ロサナ・クロチ・レイエス
2020-2022年 ラテンアメリカ地域会長

4 月強調月間テーマ - ゴミのための週 (W4W)

ワイズメンの仲間たちへ

W4W プロジェクトは、成功を収めています。昨年は、より多くのクラブが地元でゴミ拾いに取り組みました。今年は 4 月 1 日から 8 日までが対象週となります。



デンマークのジェイコブ・クリステンセン直前国際会長が任期中にこのプロジェクトを立ち上げ、キム・サンチュ国際会長が 2021-22 年度の任期中もサポートを続けています。委員長として、多くのクラブや会員の方々と、世界規模のごみ拾いに参加する前向きな姿勢について、素晴らしいコミュニケーションをとることができました。W4W は、それぞれの地域や区で良いアンバサダーになってくれています。私たちは、世界をより住みやすい場所に変えていこうという国連の目標の一翼を担っており、私たちのモットーはこの目標に合致しています。「強い義務感を持つ 義務はすべての権利に伴う」。私たちが活動するのを見て、黄色いベストを見て、「この人たちは誰だろう」と思われた人々も多いと思います。私たちは、いつも広報について話をしていますが、これはその最たるものです。



2021 年 4 月、私は 30 クラブが 12 トンのゴミを拾ったことを記録しました。1 クラブあたり平均 400kg です。もっと多くの方が路上でゴミを拾っていたことでしょう。2022 年には、より多くのクラブが、写真とゴミの重さの両方で、その活動を私に知らせてくれることを期待しています。ワイズメンとわかるような服を着ることは、私たちの強力な宣伝になります。

73 カ国 1,500 以上のクラブに所属する 23,000 人以上のワイズメンがそれぞれ少なくとも 5kg のゴミを拾えば、自然を汚染する約 12 万 kg のゴミから、母なる地球を救うことができます。クラブにとっての良いアイ

デアは、地域の YMCA やボーイスカウト、学校と連絡を取り、協力を得ることです。

ワイズメンズクラブ国際憲法には、私たちは、活動的なメンバーであると書かれており、人類史上最大のゴミに対する市民活動に参加することは当然です。私たちの使命は、活発な奉仕活動を通じて、全人類のためにより良い世界を築くためのリーダーシップを開発し、助長、供給することに努めることです。4 月 1 日から数ヶ月間、黄色いベストや YMI のロゴの入った服を着た多くのワイズメンが、街中、公園、海岸、森でゴミ拾いをする姿を見ることができると期待しています。より良い明日を築くために、そして、この世界をより住みやすい場所にするために、一緒に行動しましょう

詳しくは、私または、以下の W4W 委員までご連絡ください。ジェンズ・バイスコフ(デンマーク)、ピーア・カロ・セログ (エストニア)、ピーター・キム(韓国)、ジ・セオンユン(韓国)、アビシク・ジョンソン(インド)、レアンドロ・トレド(ラテンアメリカ)、メラニー・カルフエ・ヨシダ(米国)、アラナ・ジョン(米国)、アイシャ・フアン(アジア太平洋)、ポール・リム(アジア太平洋)

W4W のウェブページは、こちら。

W4W 委員長
ウルリック・ラウリドセン(デンマーク、元ヨーロッパ地域会長)

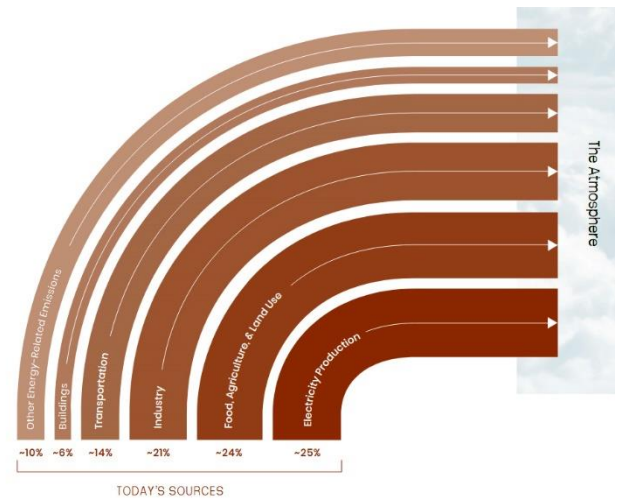
4 月強調月間テーマ - カーボンニュートラルになるための投資

気候変動に関する政府間パネル(IPCC)は、このほど、最新報告書「気候変動 2022:影響、適応、脆弱性」を発表し、その内容を紹介しました。「人間社会が気候変動を引き起こす。気候変動は、ハザード、曝露、脆弱性を通じて、適応の限界を超えるような影響とリスクを生み出す.....」と述べています。

気候変動の影響は、何度も述べられていて、すでに世界の多くの場所で体験されています。気候変動の影響の例として、洪水や干ばつを含む、より深刻な気象現象が挙げられます。オーストラリアや北米では、森林火災の発生が深刻化しています。これらの現象は、人命の損失、食料の不足、生活や家屋などの財産の破壊につながります。

右の図は、温室効果ガスがどこからやってくるかを示しています。温室効果ガスの第一の発生源は、電力生産で、石炭の燃焼がその主なものです。産業と運輸も主要な原因となっています。

解決策はあります。発電のために化石燃料を燃やす代わりに、再生可能エネルギーへの移行が進んでいます。国によっては、より早く移行するところもあるでしょう。産業界や運輸業界における再生可能エネルギーの利用も進んでいます。ノルウェーは、電気自動車への移行を先導しています。鉄鋼の製造に再生可能エネルギーを利用することは初期段階ですが、成功する可能性が高いでしょう。



YMI は 2009 年、カーボンニュートラルになることでその一翼を担うことを決意しました。それゆえ、『2010 年 8 月横浜宣言』があります。「私たちは、環境の変化と限られた資源が生命を脅かすことを認識しています。すべての会員が自らの行動と行為を通じてその影響を最小化することを推奨します。ワイズメンズクラブ国際協会は、2010-11 年度からカーボンニュートラルとなります」。

2010 年から毎年、YMI は温室効果ガスを削減するプロジェクトに投資してきました。これらのプロジェクトは、国際的なリーダーの移動によって発生する温室効果ガスの排出を相殺するものです。また、主に YMCA での、さらには YMCA が支援するコミュニティでの、様々なプロジェクトに投資してきました。プロジェクトの例としては、バイオガスプラント、コンポストシステム、照明の改善、太陽熱温水システム、PV(太陽光発電)システムなどがあります。最近では、タイのチェンマイのサオヒン YMCA とフィリピンのマカティ YMCA で、発電用ソーラーパネルの費用を寄付しました。

これらのプロジェクトは、YMI の「ネット・ゼロ・カーボン」達成に貢献するだけでなく、YMI と YMCA の絆をより強固なものにしています。

「グリーンチーム」委員長
コリン・ランビー

CS 意識高揚ビデオ

2022 年国際大会(ハワイ)ホストコミッティーのメンバーとして、大会のためにコミュニティサービスに関するプレゼンテーションを準備することが私の責務のひとつでした。私は、YMI ワールドの編集長のコシー・マシュー、米国 YMCA 同盟の広報誌編集長のフレッド・レナード、国際本部のジェイムズとトレーシー、クラブ/地域のブリテン、理事の記事、地域 CS 事業主任/国際ヒストリアンのデビー・レッドモンド、米国地域元地域会長のポビー・スタイバース・アピキ、各地域会長などに連絡したり、記事を参考にしたりさせて頂きました。



私はサウスローワン Y サービスクラブのメンバーであり、サウスローワン YMCA の IT 契約技術者であるアーロン・ラウジーと緊密に連携し、多くのソースから収集したすべての資料からプレゼンテーションを構成しました。次期理事のメラニー・カイフェ・ヨシダがビデオに音楽をつけてくれました。

2022 年国際大会が中止となったとき、私は、世界中のクラブの良いニュースを皆と共有するべく、プレゼンテーションを行いました。このビデオを楽しんでいただき、私たちの社会奉仕について多くのことを学んでいただければと思います。ビデオを見るには、[ここ](#)か右の画像をクリックしてください。



元地域会長 サウスローワン Y サービスクラブ
テリー・ブラッドリー

ビデオで紹介されているの幾つかの CS の取り組み例

Bolivia:
Focus on Teenagers, Orphans and the Elderly

Location: Santa Cruz, Bolivia

Task: The Santa Cruz de la Sierra Y's Men's Club volunteered to directly support the Home For Unwed Teenaged Mothers Madre Maria, the Refuge Home Santa Teresa De Los Andes, and the Elders Home Dios Nos Ilumine.

Mandeville Club Caribbean

Location: Manchester, Jamaica

Tasks: Speaking to youth about mental health issues, performed 3 radio appearances speaking on Covid-19's effect on mental health, and providing water to families and farmers throughout a drought.

USA:
Saying Thanks with Pizzas

Location: Manhasset, New York

Task: Pizza Meal for Healthcare Workers

Brazil:
A "Solidarity Market" Run by Y's Men's Club of Sao Paulo

Location: São Paulo, Brazil

Task: Distributing Necessities to Families in Need